

専門学校生のコミュニケーションと動機づけの関連に クラスの心理的安全性が及ぼす影響

○今城志保 (株式会社リクルートマネジメントソリューションズ) 藤村直子 (株式会社リクルートマネジメントソリューションズ)

キーワード：コミュニケーション，動機付け，心理的安全性

問題と目的

本研究では、専門学校の一年生を対象に生徒同士や教師との間で行われるコミュニケーションが、生徒の動機づけに及ぼす影響を検討する。ベネッセ教育総合研究所の調査(2017)では、専門学校への進学理由として資格の取得や専門的な学びが多く挙げられ、卒業後のキャリアを意識して進学する生徒が多い。入学時に学校に満足しているほど卒業後に教育の役立ち度を高く感じていたことも報告されている。また、学習への動機づけは教育の効果に直結すると考えられる(今城・藤村 2021)。

高等教育での動機づけに関する先行研究では、教師が生徒に寄り添う授業を行うことで、内的動機づけが高まった(Goldman et al, 2017)。また、クラスメイトや教師との良好な関係性はクラスの一体感を高めて、生徒のクラスへの参加度を高めた(Frisby & Martin, 2010)。これらは直接コミュニケーションを扱っていないが、対人相互作用の多くはコミュニケーションを通じて行われることから、クラスメイトや教師とのコミュニケーションが多いほど動機づけは高まると考える(仮説1)。

あわせてコミュニケーションを促進するものとして、「心理的安全性」に着目する。心理的安全性は、脅威や不安なく発言できるとの認知に基づくもので、その認知は所属集団メンバーで共有される(Edmondson, 1999)。したがって、クラスの心理的安全性が高いほど、クラスメイトや教師とのコミュニケーションは促進されると考える(仮説2)。また、クラスの心理的安全性の高低によって、コミュニケーションが動機づけに及ぼす影響の仕方に違いがあるかを探索的に検討する。

方法

専門学校の生徒を対象に調査を実施し(2020年7~8月、回収率68.2%)、6つの専門分野83クラスに所属する1年生3903名のデータを用いた。コミュニケーションの測定は、「授業や学校生活」「趣味や興味」「将来のことや個人的な悩み」について、クラスメイトや担任と話す頻度を4件法で尋ねた(以下、クラスC、担任C)。動機づけについては、自己決定理論をベースに作成された高校進学動機(永作&新井, 2005)を参考に作成した「統合的・内的調整(4項目)」「同一化的調整(3項目)」について、6件法で尋ねた。心理的安全性はEdmondson(1999)を参考に、「職場では」を「クラスでは」に換えて使用した($\alpha = 0.72$)。クラスごとの生徒の平均値をクラスレベルの得点として、上位50%を高群(以下 psH)、下位50%を低群(以下 psL)とした。

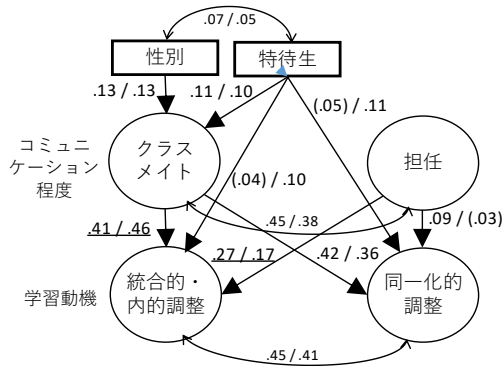
結果と考察

コミュニケーションや動機づけに関連すると思われる性別(女子=1, 84%)と特待生(特待生=1, 26%)を統制のためモデルに入れて、クラスCや担任Cが統合的・内的調整の動機づけと同一化的調整の動機づけに影響を及ぼすことを構造方程式モデルで検討した。統制変数からのパスで有意でなかったものを除き、心理的安全性の高低群で多母集団同時分析を行った。コミュニケーションの程度については平均構造モデルを合わせて検討した。モデルの適合は十分であった(Figure 1)。

クラスCと担任Cから統合的・内的調整へのパスは、いずれの群も有意であった。同一化的調整へのパスは、クラスCからは両群で有意であったが、担任CはpsHでは有意にならず、仮説1は一部支持されなかった。またコミュニケーション程度に2群間で有意差があったのは担任Cのみで(psLで0とした時にpsHで0.07)、仮説2も一部支持されなかった。心理的安全性は立場の弱い人の発言を促進することが知られており(Bienefeld & Grote, 2014)、psHのクラスでは、生徒より立場の強い担任相手の会話が促進されたと考えられる。

いずれの動機づけでも、クラスCからのパスが担任Cからのパスよりも値が大きく、クラスメイトとの会話が動機を高める効果が強かった。特に内的・統合的調整へのパスはpsHでpsLより有意に高かった。一方で、担任Cからのパスは、いずれに動機でもpsHよりpsLで高く、担任との会話は心理的安全性が低い場合に動機を高める効果が強かった。なぜこのような結果が得られたのかを明らかにするためにも、今後は具体的な会話の内容についても情報を集めて検討を進める必要がある。

Figure 1 クラスの心理的安全性高低別多母集団同時分析



$\chi^2 = 873.138$, $df = 175$, $p = .000$; $CFI = 0.945$, $TLI = 0.925$, $RMSEA = 0.038$, $AIC = 1063.138$

- 数値は標準化係数 低群/高群
- ()以外の数値は5%水準で有意
- 数値は群間で5%水準で有意差
- ○は潜在変数で群間で因子負荷が等しいとの制約